氏名	髙 口 浩 一
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	博 甲 第 798 号
学位授与の日付	平成 2 年 3 月 28 日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学㈠専攻 （学位規則第 5 条第 1 項該当）
学位論文題目	Immunohistochemical study of pre-S (2) antigen in liver and serum of patients with chronic hepatitis B （B型慢性肝炎患者における血中および肝組織内 pre-S (2) 抗原についての検討）
論文審査委員	教授 木村郁郎　教授 太田善介　教授 赤木忠厚

学位論文内容の要旨

B型慢性肝炎患者の肝組織内 pre－S(2) 抗原（pre－S (2)）の意義を明らかにする目的で，27例のB型慢性肝炎患者の肝組織内 pre －S(2)および他の HBV 関連抗原を酵素抗体法で染色すると共に，血中 pre －S(2)を EIA 法にて測定した。肝組織内 pre －S(2)は27例全例で陽性であり，血中 pre －S(2)は25例で陽性であった。肝組織内 pre －S(2)は，肝細胞膜ないし肝細胞膜と肝細胞質に染色される例が18例，細胞質のみに染色される例が 9 例認められた。血中 pre －S(2)値は肝組織内 pre －S(2)が細胞質型を示す症例に比べ膜型を示す症例で有意に高かった。一方，肝内 pre－S(2)と HBs 抗原は光顕および電顕レベルでほぼ同様の染色パターンを示した。肝内 HBc 抗原が陽性の25例中，膜型の pre －S(2)は16例で認められた。急性増悪前およびピークには膜型の pre －S(2)が 7 例全例で認められたが，急性増悪後の 8 例中 4 例で膜型の pre －S(2)は認められなかった。以上のことより膜型を示す pre －S(2)はその血中への分泌と関連があることが示唆され，また膜型の pre －S(2)と HBs 抗原は一部の症例では急性増悪に関連して消失することが考えられた。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究はB型慢性肝炎患者における血中および肝組織内 pre －S(2)抗原について研究したものであるが，従来十分確立されていなかった pre －S(2)抗原の意義について検討

し，血中の値は肝組織内のそれが細胞質型をとる症例よりも膜型を示す症例で高値を示し，血中への分泌との関連が示唆され，又 HBe 抗原とともに急性増悪に関連して消失することがわかり，重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究は医学博士の学位をえる資格があると認める。